

老朽建築物に対する東京都板橋区の 取り組みと今後の課題

氏名 岩崎颯太

現在我が国で大きな問題となっている空き家問題の深刻さについて学び、どうする事が解決に繋がるのか考える必要がある。そこで、本研究では所有者不明空き家の行政代執行と所有者ありの空き家の行政代執行との比較を行い、どのような課題があるか検討した。

所有者不明空き家と所有者あり空き家に対する行政代執行の事例を分析資料として、期間、交渉の有無、検討項目について比較したところ、両者の間には代執行を行う難しさという共通点がある一方で、所有者不明空き家には期間が長く、所有者がいないため検討項目が多く、所有者あり空き家には所有者との交渉の有無という特徴があることが明らかとなった。

これらの結果から、行政代執行に要する手間や期間は所有者不明空き家の方が大きいことが分かった。このことから、空き家問題解消のためには、所有者不明空き家を増やさない取り組みを行う必要があると考えられる。

今回は、東京都板橋区を中心に研究したが、空き家問題は全国的に問題であり、高齢化が急速に進む我が国では、さらに深刻な問題になると推定できる。本研究では、具体的にどのように課題を解決するのかの検討を行っていないので、今後は、これらの課題について、研究を行っていく必要があるだろう。